



日本統計学会 会報 2014.1.25

No.
158

発行—— 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
(公財) 統計情報開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任— 鎌倉 稔成 (理事長) / 西郷 浩 (庶務理事)
竹内 恵行 (広報理事) / 西莖 晴久 (広報委員)
入戸野 健 (広報委員)
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|--|--|
| 1. 巻頭随筆…………… 高橋倫也… 1 | 8. 国勢調査の匿名データの提供開始… 吉武 透…11 |
| 2. 2014年度統計関連学会連合大会のお知らせ(第一報)
…………… 山田剛史・大森裕浩・西郷 浩… 3 | 9. 第3回臨時理事会・委員会報告…………… 11 |
| 3. 第8回日本統計学会春季集会のお知らせ(第二報)
… 鎌倉稔成・宿久 洋・足立浩平・村上秀俊… 4 | 10. 金融の計量リスク管理分科会
(2009-2012年度) 報告…………… 三浦良造…13 |
| 4. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集
…………… 鎌倉稔成… 6 | 11. 修士論文・博士論文の紹介…………… 15 |
| 5. 研究部会新設公募…………… 鎌倉稔成… 8 | 12. 新刊紹介…………… 15 |
| 6. 統計検定の実施について…………… 竹村彰通… 9 | 13. 学会事務局から…………… 15 |
| 7. 日本経済学会連合からのお知らせ
…………… 小島 宏・西郷 浩…10 | 14. 投稿のお願い…………… 16 |

1. 巻頭随筆

高橋 倫也 (神戸大学名誉教授)

団塊世代と真ん中の私の記憶では、教室は小学校からいつもすし詰め状態であつた。ただ大学では試験のときだけであつたのが我々世代らしいが、中学生の頃から、人数が多いので「お前等これから競争で大変だぞ！」とことあるたびに先生方から脅されてきた。昨年3月末に大学の定年を迎えた。同年代の方々のリタイアがこれから続くと思われる。私は大阪大学の大学院で統計学を学び、その後大学に就職でき統計学の教育や研究をしてきた。以下、工学系での私の拙い仕事についてご紹介したい。

統計学は大学院で始めて教えてもらった。数学科に入学し履修申請時に「統計学を取ろうか？」と下宿で医学部の先輩に聞くと「バカ！あんな難しいもの取るな！」というアドバイスをもらい、

それに素直に従った。卒業前に数学の勉強で青息吐息の私は、たまたま一松信先生の書かれた「統計数学、計算機数学、情報科学といった新しい分野の研究者は、現在はまだほとんどいない……」というのを見た。「新しい分野＝少し勉強すれば何とかなる」と都合よく解釈し統計数学を選んだ。そうして、なんとか基礎工学研究科・数理系へ入れてもらい、そこで丘本正先生や永井武昭先生に数理統計学や確率論の基礎を教えていただいた。

修士修了後に幸い阪大の人間科学部に助手として採用された。この学部には数学と統計を教育や研究に使うという意気込みがあつたのだが、力不足でありお役に立てなかつた。そのころから計算機教育が始まり、私は主にそちらの補助をした。次に神戸商船大学の商船学部と神戸大学と合併し

て出来た海事科学部に定年までお世話になった。主に共通講座扱いのところに属し、統計学の入門と数学を教えた。学部の一部からの統計学への期待があり、即戦力の「多変量解析」や「実験計画法」の講義が要求された。時間と人員不足の中、基礎抜きで学生にどう教えればよいのか難題と感じた。また長年教えてきて「データ解析の経験の少ない教師に統計学を教えられる学生は気の毒だ」とも考えるようになった。とにかく、あんな難しい統計学をきちんと教えるのはほんとに難しいことだと思う。

阪大の助手をしていた頃、教養部におられた稲垣宣生先生が極値理論で有名な de Haan 教授の学位論文を本にしたものを紹介してくださった。一変量の場合の極値理論に関してはこの本に必要な事がほとんど書かれている。私は正則変動関数などの勉強をし、細々と一変量や多変量極値統計量の漸近分布関係の古臭い研究をしていた。

40歳前に慶應大学の渋谷政昭先生に声をかけていただき、アメリカ商務省の研究所 NIST で開催された「極値理論とその応用」のコンファレンスに参加した。そこに出席されていた日本では少数派の極値理論研究者の皆さんを中心メンバーにして、統計数理研究所で「極値理論の工学への応用」の共同研究集会を開催させてもらうようになった。長年研究所の志村隆彰先生にお世話になり、研究集会は本年度で20回を迎えた。昨年度まで私が代表者をしてしたが、本年度から名古屋工業大学の北野利一先生が引き継いでくださった。研究集会のレポートを10号発行している。研究集会には腐食、建築、土木、確率と統計、そして最近ではファイナンスの分野の方々が参加されている。おかげで種々の分野での極値理論の研究や応用に関する話を聞くことができ大いに刺激を受けた。研究集会の参加者の方々の研究は、少し古いが『統計数理・特集「極値理論」第52巻第1号(2004年)』にある。見ていただけたら幸いである。

渋谷先生が共同研究に誘ってくださった。NIST で九州大学の村上敬宜教授が発表された「鋼の表面に現れた介在物寸法データから、鋼に

含まれている最大介在物寸法を推定する」というステレオロジーと極値理論が関係する面白い問題について共著の論文を数編書くことが出来た。この頃から、私は統計ソフトを使い極値データ解析の真似事が出来るようになった。

洋書の極値理論の専門書として、私が研究を始めた頃から確率論に関するものが出版されだし、最近になり極値データ解析を扱ったものが数多く出版されるようになってきた。ここに来て思うのは、極値理論という比較的新しくして競争の少ない分野の研究をしてきたが、少しの勉強では何ともならなくなってきた。極値理論そして計算機統計学のすさまじいと感じる発展があり、多くのことを勉強しないと研究は進まなくなった。また、数学科を卒業後働きながら医者になった友人が「僕に最新の知識があったら、あの患者さんは死ななくてすんだのに！」と、統計の友人が「あの人は結論を言わない！」と言ったことが気になり記憶に残っている。統計研究でも、勉強して最新の手法でデータ解析を行い、難しくても結論をはっきり言う努力を続けなければ、と思うようになった。結局、遅まきながら良き先生、先輩、後輩に恵まれて私は当たり前のように気がついたことになる。

観測開始以来の大雨とか観測史上最大の大雨という、気候変動で定常性は死んだのかと思わせるニュースを最近聞くことが多くなった。これから私は誘ってくれている仲間と、最大降雨量と河川のピーク流量などの治水関係の研究を続けたいと考えている。治水は、白河法皇が「賀茂川の水、双六の賽、山法師、是ぞわが心にかなはぬもの」と嘆かれたように、古くからの重要問題である。ところで「双六の賽」は「博奕の輩の治安問題」だという記事をかかなり前に読んだことがある。法皇は政治の話をされているのだから私もそうだと思う。

耐震工事のため、定年前に研究室を半年以上追い出され、小さな部屋で大量の段ボール箱と同居する羽目になった。それ以来、肝心な資料は段ボール箱の中で行方不明（マーフィーの法則）で、気分も取り巻く環境も一足先にすっかり定年を迎

えてしまった。定年後のことを考える間もなく、その日が来てしまった。少し落ち着いた現在、時々拾い読みしている「俳句－四合目からの出発－」（阿部篤人）のまねをして、これから極値理

論の応用や研究を開始される方々が、富士山の五合目までバスで行きそこから登山のスタートが出来るような、そんなお手伝いが出来ないかと考えている。

2. 2014年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第一報）

—企画セッションの公募—

2014年度統計関連学会連合大会

運営委員会委員長 山田剛史（岡山大学）

実行委員会委員長 大森裕浩（東京大学）

プログラム委員会委員長 西郷 浩（早稲田大学）

2.1. 2014年度統計関連学会連合大会について

2014年度統計関連学会連合大会は、応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会の共催により、2014年9月13日（土）から16日（火）まで東京大学本郷キャンパス（http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/map01_02_j.html）で開催いたします。初日の9月13日は、チュートリアルセッションおよび市民講演会、9月14日から16日までは、企画セッションなどの一般講演に加えコンペティションやソフトウェアセッションなどを予定しています。

2.2. 企画セッションの公募

統計関連学会連合大会プログラム委員会は、市民講演会、チュートリアルセッション、企画セッション、コンペティションセッション、ソフトウェアセッション等を担当しております。統計関連学会会員の皆様でご意見やご提案をお持ちの方は是非お知らせください。

また、企画セッションに関しましては、今回もこれまでどおり公募いたします。広い意味で統計学の発展への寄与、統計学の社会的使命に関わる企画のご提案を歓迎いたします。なお、応募が多数の場合にはプログラム委員会で調整させていただくこともありますのでご了承ください。

企画セッションの申込みに際しては、セッションのテーマとねらい、オーガナイザーの氏名・所属・連絡先、予定講演者と演題名をメールにてお知らせください。企画セッション1件あたりの時間は120分を予定しております。講演件数・講演方法などは、この時間の範囲で自由に設定いただけます。

企画セッション応募締切 2014年3月5日（水）

企画セッション応募先

kikaku2014(at)jfssa.jp (at)を@に置き換えて下さい。

担当責任者 黒住 英司（一橋大学）

2.3. その他の準備状況のご報告

2.3.1 コンペティションについて

「コンペティション講演」に関わる事項はつぎの通りです。コンペティション講演は、研究内容とプレゼンテーションの能力を競う企画です。参加資格は2014年4月1日時点で満30歳未満の若手研究者（博士後期課程院生をふくむ）、または、講演時に学部学生や修士課程（または博士前期課程）院生（年齢を問いません）です。連名講演の場合、コンペティション対象者は実際に口頭発表する方です。なお、研究報告の申し込み時点でコンペティション対象者は、共催6学会のいずれかの会員でなければなりません。ただし、申し込み

と同時に入会手続きをする方も含みます。また、事前審査は行ないません。申し込んだ有資格者全員がコンペティションに参加して頂けます。審査は、報告集の内容と当日の口頭発表に対して、各学会から選出された審査員による総合的な評価で行います。

2.3.2 チュートリアルセッション、市民講演会、ソフトウェアセッションについて

9月13日に以下のようなチュートリアルセッションおよび市民講演会を開催予定です。多くの市民や研究者の方々にとって有益な内容ですので皆様の参加をお待ちしています。

<チュートリアルセッション>

テーマ1：公的統計データの二次的利用（仮題）

講師：小林 良行（総務省統計研修所）

テーマ2：依頼中

講師：依頼中

<市民講演会>

総合司会：渡辺 美智子（慶應義塾大学）

テーマ1：統計からみた保険の仕組み

講師：杉田 健（三井住友信託銀行）

テーマ2：漱石の目指した統計科学

講師：椿 広計（統計数理研究所）

2.3.3 一般講演申込、報告集原稿提出、事前参加申込について

一般講演や参加の事前申込み、報告集原稿提出はホームページ上で行います。一般講演申込の締め切りを5月下旬（予定）とし、それ以降、報告集原稿提出および参加事前申込の締め切りを設定いたします。確定した期日や具体的な企画は、2014年4月下旬ごろの第二報でお知らせいたします。

3. 第8回日本統計学会春季集会のお知らせ（第二報）

鎌倉稔成（日本統計学会理事長）

宿久 洋・足立浩平・村上秀俊（企画・行事担当理事）

宿久 洋（実行委員長）

第8回日本統計学会春季集会を同志社大学にて開催いたします。会員の皆様による活発な議論を期待しております。企画セッションのプログラムは下記のようにになりました。午前は統計教育に関する特別セッション「統計教育の新たな潮流」および文部科学省・科学技術振興機構による事業説明会を行い、午後は「高次元経済経営データの統計モデリング」「ビッグデータとその周辺」「多重比較の理論と応用：最近の展開」「行列分解による多変量データ解析」という4つのセッションを2セッションずつ並行して行います。ポスターセッションでは、ポスター発表を広く募集しております。優れたポスター発表に対して、実行委員会から「優秀発表賞」と「学生優秀発表賞」を授与いたします。セッション終了後、懇親会を計画し

ており、授賞式も合わせて行います。会員の皆様の参加を心よりお待ちしております。

記

日時：2014年3月8日（土）9：00～17：30+懇親会

会場：同志社大学今出川キャンパス良心館（RY204, RY207, RY208）

（京都府京都市上京区今出川烏丸東入）

参加費：無料（懇親会は有料）

プログラム

[午前の部]

9：00－9：10「開会式」会場：RY204

開 会：鎌倉稔成（日本統計学会理事長）

挨 拶：国友直人（日本統計学会会長）

9：10-11：10「特別セッション：統計教育の新たな潮流」 会場：RY204

オーガナイザ：美添泰人（青山学院大学, JINSE 運営委員長）

座長：美添泰人（青山学院大学）

講演 1：竹村彰通（東京大学）

「学術会議の数理科学分野の参照基準における統計学の扱いについて」

講演 2：櫛 浩一（ニッセイ基礎研究所／東京工業大学）

「JINSE 外部評価委員会報告」

講演 3：山内祐平（東京大学）

「MOOC と反転授業」

講演 4：Helen MacGillivray（Queensland University of Technology）

「Teaching and assessment of statistical thinking within and across disciplines」

「本セッションは、JINSE：統計教育大学間連携ネットワークと共催」

11：15-12：15「文部科学省・科学技術振興機構 説明会」 会場：RY204

司会：宿久 洋（同志社大学）

[1] JST 戦略的創造研究推進事業の H26 年度提案募集について

[2] 文部科学省委託事業 数学・数理科学と諸科学・産業との協働によるイノベーション創出のための研究促進プログラムについて

12：15-13：45「ポスターセッション（コアタイム）」（昼休み）

[午後の部]

13：45-15：30「企画セッション 1：高次元経済経営データの統計モデリング」 会場：RY207

オーガナイザ：照井伸彦（東北大学）

座長：照井伸彦（東北大学）

講演 1：川崎能典（統計数理研究所），植木優夫（東北大学）

「スパース正則化に基づく変数選択・グループングとその応用」

講演 2：松田安昌（東北大学）

「大規模で非定常な時空間データの wavelet 解析」

講演 3：石垣 司（東北大学），照井伸彦（東北大学），佐藤忠彦（筑波大学）

「変分ベイズ法を用いた購買履歴データ分析のための大規模マーケティングモデル」

13：45-15：30「企画セッション 2：ビッグデータとその周辺」 会場：RY208

オーガナイザ：水田正弘（北海道大学）

座長：水田正弘（北海道大学）

講演 1：南 弘征（北海道大学），水田正弘（北海道大学）

「ビッグデータのハンドリングと解析法について」

講演 2：五十嵐 健太（NTT DATA 数理システム）

「ビッグデータでデータマイニング「Big Data Module」紹介」

講演 3：田澤 司（日本ティップソフトウェア）

「ビッグデータを高速で可視化、分析、理解する新世代ツールとは？」

15：30-15：45 休 憩

15：45-17：30「企画セッション 3：多重比較の理論と応用：最近の展開」 会場：RY207

オーガナイザ：瀬尾 隆（東京理科大）

座長：瀬尾 隆（東京理科大）

講演 1：三輪哲久（農業環境技術研究所），栗木哲（統計数理研究所），A.J. Hayter（デンバー大学）

「多面体正規確率の正確計算法と多重比較への応用」

講演 2：白石高章（南山大学）

「多群モデルにおける平均母数に順序制約のある場合の閉検定手順」

講演 3：西山貴弘（専修大学）

「Simultaneous confidence intervals for multiple comparisons among mean vectors in high-dimensional settings」

講演 4：中村智洋（東北大学），道家暎幸（東海大学）

「用量反応試験において交互作用を検出するた

めの逐次型多重比較法の開発」

15：45-17：30「企画セッション4：行列分解による多変量データ解析」会場：RY208

オーガナイザ：足立浩平（大阪大学）

座長：足立浩平（大阪大学）

講演1：足立浩平（大阪大学）

「行列分解型の因子分析と主成分分析：高階数近似と低階数近似」

講演2：亀岡弘和（東京大学／NTT）

「非負値行列因子分解とその音声音響信号処理への応用」

講演3：坂田年男（九州大学）、角俊雄（九州大学）、宮崎充弘（京都教育大学）

「テンソルデータの階数問題：計算代数統計的視点から」

18：00-20：00「懇親会」会場：SECOND HOUSE will（同志社大学寒梅館）

○ポスターセッションの申し込み

メールにて poster-haru14@jss.gr.jp 宛てお申し込みください。詳細は集会ホームページ http://www.jss.gr.jp/ja/convention/spring/08/JSSspring2014_poster.html をご覧ください。なお、申し込み締め切りは2月14日（金）です（厳守）。

○懇親会の申し込み

メールにて konshin14@jss.gr.jp 宛てお申し込みください。詳細は集会ホームページ http://www.jss.gr.jp/ja/convention/spring/08/JSSspring2014_party.html をご覧ください。会場の都合により、先着70名で締め切らせていただきます。早めの申し込みよろしくお祈りします。

4. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集

鎌倉 稔成（日本統計学会理事長）

日本統計学会制定の以下の各賞の受賞候補者の推薦を募集します。

第19回 日本統計学会賞

第10回 日本統計学会統計活動賞

第10回 日本統計学会統計教育賞

第8回 日本統計学会研究業績賞

第7回 日本統計学会出版賞

いずれも推薦期間は2013年12月25日（水）から2014年4月5日（土）と致します。推薦書の書式は全て学会ホームページ

（<http://www.jss.gr.jp/ja/>）からダウンロード可能です。推薦書は各賞とも全て以下への郵送をお願いします。封筒に「～賞推薦書在中」と朱書きして下さい。不明な点は学会事務担当者にご照会下さい。

[宛先・照会先]

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町3-6能楽書林ビル5F

（公財）統計情報研究開発センター内

日本統計学会

TEL&FAX 03-3234-7738

E-mail：shom@jss.gr.jp

以下に各賞共通の規程並びに各賞個別の概要をお示しします。

○各賞共通

[受賞対象]

各賞受賞の対象となる者は、その年齢、性別、国籍、日本統計学会の会員・非会員の別を問わない。

[推薦方法]

推薦者は各賞所定の書式に従って推薦する。各賞受賞候補者を推薦することができる者は、日本統計学会の正会員、名誉会員に限る。

[選考方法]

各賞受賞対象者の選考は、日本統計学会に設けた各賞の選考委員会が、会員の推薦を受けて実施する。

[発表]

各選考委員会は選考結果を日本統計学会代議員会に報告し、大会期間中に授賞式を行う。

○各賞の概要

日本統計学会賞

[趣旨]

統計学の研究および普及に対して貢献した個人に対して授与し、その功績を顕彰する。

[対象範囲]

対象とする分野は次のとおりとし、全体として年間3名程度に授与する。

理論：統計学の理論の発展に多大の貢献のあった者

実証・応用・計算：この分野は以下のような内容を含む。

- (1) 人文・社会系では、経済、経営の実証分析、社会学、言語学、心理学の調査・分析など、統計的手法を利用して社会的現象を解明するのに貢献のあった者。
- (2) 医学、工学、農学、理学などでは統計的手法の適用による具体的な問題の解決に対する貢献のあった者。
- (3) 統計計算では、統計的分析のためのアルゴリズム・ソフトウェアの開発に貢献のあった者。
- (4) 応用一般として、分野を問わず統計調査の標本設計、経営管理などで貢献のあった者。

その他：理論・実証・応用などを含め、幅広く統計学の普及・発展に貢献した者。

[推薦・選考方法]

推薦者は所定の書式にしたがって、対象範囲に定められた分野のいずれかに候補者を推薦する。

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、会誌編集担当理事2名、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

賞状および記念品などの副賞を授与する。

日本統計学会統計活動賞

[趣旨]

研究や教育に限らず、広く統計学及び統計の分野において高く評価しうる活動を顕彰する。

[対象範囲]

授賞の対象は、次に掲げる分野の活動である。

- (1) 統計学及び統計を支える基盤の充実・高度化（統計関連領域の研究・教育組織の設立、実務家へのサポート、統計に関する企画・推進等）。
- (2) 研究・教育のための環境整備に対する貢献（ソフトウェア、データ・ベースの開発及び支援等）。
- (3) 新たな研究領域・分野の開拓。
- (4) 新たな統計の作成（個人、グループ・団体等による統計の作成と継続、及び作成機関における従来活動を越えた取組み等）。

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、学会活動特別委員会委員長、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞対象となる活動を担った個人又はグループ・団体には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会統計教育賞

[趣旨]

統計教育の研究及び実践において顕著な業績を挙げた個人又は団体を顕彰し、わが国の統計教育の発展並びに統計の普及、啓蒙に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

授賞の対象となる者は、次に掲げる分野において多大の貢献のあった個人又は団体とする。

- (1) 統計教育に関する著書、論文
- (2) 統計教育の実践
- (3) 統計教育に用いるソフトウェア、テキスト、

教材等の開発

(4) 統計の普及、啓蒙

(5) その他統計教育の発展に寄与する活動

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、統計教育委員会委員長、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会研究業績賞

[趣旨]

統計学及びその関連分野において優れた研究業績をあげた個人を顕彰し、わが国の統計学の発展に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

過去3年程度に日本統計学会誌あるいは内外の統計学関連の学術誌上で発表された論文を審査対象とする。受賞件数は毎年2件以内とする。

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、会誌編集担当理事2名、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会

会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会出版賞

[趣旨]

統計学及びその関連分野において優れた図書（研究、教育あるいは啓蒙）を出版した著者、訳者あるいは出版社を顕彰し、わが国の統計学の発展に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

審査の対象は、次に挙げるいずれかの要件を満たすものとする。

- (1) 著者、编者あるいは訳者として、過去5年程度に刊行された統計学に関連する研究、教育あるいは啓蒙上の図書。
- (2) 過去5年程度に刊行された統計学に関する出版企画。

受賞件数は毎年2件以内とする。

[選考方法]

選考委員の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、会誌編集担当理事2名、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

5. 研究部会新設公募

鎌倉 稔成（日本統計学会理事長）

統計学の研究活動を助成するため、日本統計学会が1954年に研究部会制度を設けて以来、これまでに多くの研究部会が誕生し、統計の発展に寄与して参りました。この制度は、公募制をとり、原則として年1ないし2件が社員総会の承認を得て発足します。部会の設置期間は原則、2年以内とします。補助金は1部会につき年間10万円で、部

会設置後1年を経過したとき、過去1年間の部会の経過報告書及び会計報告書を、また設置期間が終了したとき、経過ならびに成果に関する報告書及び会計報告書を社員総会に提出しなければなりません。また、部会の設置期間終了のとき、寄与した成果について、本学会会報等に報告を掲載して広く会員に公表するものとするようになってい

ます。

以下の要領で研究部会を公募いたしますので、
ふるってご応募ください。

応募期日：2013年12月7日～2014年2月6日

応募先：

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町3-6能楽書林ビル5F

(公財)統計情報研究開発センター内

日本統計学会事務局

TEL&FAX：03-3234-7738

E-mail：shom@jss.gr.jp

応募書類の書式は学会ホームページよりダウンロードください。採否は3月に開催予定の社員総会にて審議の上、決定します。

なお、研究分科会（設置期間4年間）については随時募集しております。こちらにも積極的にご応募ください。研究分科会の趣旨等については学会ホームページをご参照ください。

6. 統計検定の実施について

竹村 彰通（統計検定運営委員会委員長）

2011年より開始した統計検定の事業に対しては、会員の皆様の大きな支援を頂いております。第3回目の検定が2013年11月17日に、札幌、仙台、東京23区内（2か所）、立川、松本、名古屋、大阪、福岡の9つの一般会場と、大学間連携共同教育推進事業の連携大学を含む24の団体特設会場で実施されました。会員の皆様からは、問題の作成・点検、会場の手配・運営など、第1回、第2回に引き続き献身的な協力を頂きました。関係者を代表して、心よりお礼申し上げます。

申込者総数は延4895名となり、昨年の2692名と比較して1.8倍以上となりました。各種別の申込者数、受験者数、合格者数、合格率は次のとおりです。

1級	402	227	32	14.10%
2級	2087	1510	635	42.05%
3級	1445	1217	737	60.56%
4級	243	195	146	74.87%
統計調査士	462	403	170	42.18%
専門統計調査士	256	229	93	40.61%

試験の結果については試験実施の1か月後にWebで発表しました。郵便による試験結果の通知および合格証は1月に発送する予定です。なお成績上位者に対しては表彰状を贈ります。英国王

立統計学会（RSS）に準じて、これらの成績優秀者は本人の同意のもとに、Web等で氏名を公開します。

試験とは別に、従来から総務省の支援の下に公益財団法人統計情報研究開発センターが統計教育の普及啓発活動の一環として実施してきた「統計グラフ全国コンクール」に関連して、優秀な作品の制作者への日本統計学会会長賞の授与および「統計検定4級（活動賞）」の授与も、学会で承認されています。今年の統計グラフ全国コンクールへの応募作品数は25,852点、そのうち優秀と認められ「4級（活動賞）」を授与される作品の受賞者数は1169名となりました。日本統計学会会長賞は、2013年11月13日（水）に東京都で開催された第63回全国統計大会において、国友直人会長から副賞とともに授与されました。4級（活動賞）の表彰状は各都道府県の統計協会を通じて送付されます。

過去の試験については正解を統計検定のウェブで公開しています。また各方面からの要望にこたえて、過去一回分の問題冊子も当面公開する方針です。検定の各級に対応する教材に関しては、1級から4級のそれぞれの級に対応した教科書を発行しており、順調な売れ行きを示しています。また問題集についても、アマゾンからプリント・オン・デマンドの形式で2012年の統計検定の問題に

ついて詳細な解説を付した問題集を「2級・3級・4級」、「1級・RSS/JSS」、「統計調査士・専門統計調査士」の3冊にわけて発行中です。これらの問題集については、今後一般の出版社からの発行を計画しています。なお、著者の方々のご好意により、これらの書籍の印税はすべて一般財団法人統計質保証推進協会を通じて統計教育に役立てられます。

2014年には、RSSと共同で5月23日（金）から25日（日）の3日間にわたり第3回目となる国際資格試験を実施します。来年度からはこれまで

のHigher Certificateに加え、Graduate Diplomaの試験を開始します。統計検定については、6月22日（日）には2級、3級、4級の試験をおこない、年2回の実施体制に移行します。そして11月30日（日）には例年と同様1級から4級、統計調査士、専門統計調査士の全種別の試験をおこないます。

今後とも、統計教育の質の向上を共通の目標とした活動を継続し、一層発展させたいと念じております。これまでの活動を支えて頂いた会員の皆様には、重ねてお礼申し上げますとともに、引き続きご支援下さいますよう、お願い致します。

7. 日本経済学会連合からのお知らせ

小島 宏・西郷 浩（日本経済学会連合評議員）

日本統計学会が加盟する日本経済学会連合では、例年通り平成26年度も加盟学会に対して国際会議派遣補助を支給します。応募者多数の場合、日本経済学会連合理事会が対象者を選考します。また、1回の募集につき1学会1件の応募が原則ですので、希望者が複数の場合には理事会で選考いたします。募集方法の詳細は日本統計学会事務局にお問い合わせください。

日本経済学会連合 国際会議派遣補助

(a) 目的：

加盟学会の会員が、平成26年4月1日から平成27年3月31日までに開催される海外での国際会議に出席する場合、往復渡航費・宿泊のための補助金を支給する。

(b) 補助額：

原則として開催地により7段階（10万円から40万円まで5万円刻み）とする。

(c) 募集時期：

第1回：平成26年2月10日（日本統計学会事務局宛の締め切り）

第2回：平成26年5月末日（日本統計学会事務局

局宛の締め切り）

注）第2回は、第1回選考の結果、余裕定員があるときのみ応募する。

(d) 応募の条件：

派遣先の国際会議は申請学会が公認したものであること、申請学会よりの派遣者が同会議での報告者または討論者であること、被派遣者は、過去5年間、日本学術会議から派遣費を受けていないこと、また、当年度において、日本学術会議をはじめ他の期間から補助を受けていないこと、申請は、1回の募集につき1学会1件に限る。また、補助が受けられるのは、年間で1学会1件とする。

(e) 備考：

申請には、当該国際会議に関するインフォメーション（レター、プログラムなど）を添付すること。また、補助を受けた被派遣者は、帰国後1ヶ月以内に「国際会議派遣報告書」ほかを経済学会連合事務局に提出すること。この補助を受けて国際会議に出席した場合には、経済学会連合評議員会（10月ごろ）にて30分程度の報告を依頼することがある。

8. 国勢調査の匿名データの提供開始

吉武 透（独立行政法人統計センター）

平成25年12月27日に、国勢調査（平成12年）の匿名データの提供を開始しました。

独立行政法人統計センターでは、公的統計のマイクロデータの利用を推進しています。データ提供のサービスとしては、

- ・匿名データ提供
- ・オーダーメイド集計・提供

の2つのサービスを主としています。

匿名データ提供サービスとは、利用要件（利用目的、成果の公表、匿名データの適正管理等）を満たす一般の方からの提供要望の申出に対し、調査票情報を加工し、調査された個人や企業が識別できないように匿名化したデータを有償で提供するものです。

オーダーメイド集計・提供のサービスとは、利用要件（利用目的、成果の公表等）を満たす一般の方からの統計表の作成要望の申出に対し、行政機関や統計センターが調査票情報を用いた集計を行い、その集計結果を有償で提供するものです。

このうち、匿名データとしては、これまで統計センターが提供を行っている総務省の全国消費実態調査、社会生活基本調査、就業構造基本調査、住宅・土地統計調査、労働力調査。その他に、厚生労働省が提供を行っている国民生活基礎調査の6調査となっております。

このたび、統計センターでは、オーダーメイド集計・提供のサービスのみだった総務省の国勢調査について、平成12年の匿名データが提供できることとなりましたので、ご利用ください。

これらの他にも、統計センターでは、

- ・擬似マイクロデータの試行提供
- ・LISとの協定

などの活動を行っています。

擬似マイクロデータの試行提供サービスとは、集計表から作成した、マイクロデータ形式の擬似的なデータセットを提供するサービスです。簡単な手続きにより、無料で大学・高等学校等の授業や実証研究のプログラムテストに利用することができます。

LISは、世界主要国の家計所得に関する統計データを収集してデータベースを整備しているプロジェクトであり、所得分布に関する国際的なデータベースとして最も有名なものです。国内の大学の研究者等はLISのデータベースを無料で利用できます。LISとの協定は、慶應義塾大学と国内委員会を組織して行っているものです。

詳しくは、統計センターホームページ
<http://www.nstac.go.jp/services/archives.html>
をご覧ください。

9. 第3回臨時理事会・委員会報告

第3回臨時理事会

日時：2013年12月21日（土）12：00～13：00

場所：統計数理研究所八重洲サテライトオフィス
会議室

理事の総数 12名 出席理事の数 10名

監事の総数 2名 出席監事の数 2名

出席者

理事：国友直人会長、鎌倉稔成理事長、西郷浩（庶務）、三分一史和（庶務）、大野忠士（会計）、西山陽一（会誌編集・欧文）、谷崎久志（会誌編集・和文）、竹内恵行（広報）、勝浦正樹（大会）、宿久洋（企画・行事）

(以上10名, カッコ内は役割分担)

幹事：竹村彰通, 矢島美寛

<第1議案> 常設委員会における委員の交代
鎌倉理事長より, 下記のとおり大会委員の交代
についての提案があり, 承認された.

紙屋英彦委員より長塚豪己委員に交代
(2013.10.1付け)

竹田裕一委員より永井義満委員に交代
(2013.10.1付け)

**<第2議案> 小川研究奨励賞基金の管理統合に
ついて**

鎌倉理事長より小川研究奨励賞基金を日本統計
学会の特定資産として管理をする旨の提案が, 承
認された.

**<第3議案> 学会賞各賞の候補者推薦と選考委
員について**

鎌倉理事長より, 学会各賞の候補者推薦の開始
について提案があり, 推薦受付期間を2013年12月
25日より2014年4月5日までとすることを承認し,
会長が推薦する選考委員は社員総会において承認
を得ることとした.

<第4議案> 会員の入退会 (回覧)

鎌倉理事長より, 回収資料に基づき入退会者が
紹介され, 承認された.

<第5議案> 臨時社員総会の招集の件

1. 日時 2014年3月7日(金曜日)午後6時30
分から
2. 場所 同志社大学室町キャンパス寒梅館6階
大会議室
3. 会議の目的事項
(1) 社員総会における通常の審議

委員会

日時：2013年12月21日(土) 13:00~14:20

場所：統計数理研究所八重洲サテライトオフィス

会議室

出席：国友直人会長, 鎌倉稔成理事長, 西郷浩,
三分一史和, 大野忠士, 西山陽一, 谷崎久志,
竹内恵行, 勝浦正樹, 宿久洋, 竹村彰通(幹
事), 矢島美寛(幹事)

<報告事項>

1. 欧文誌編集委員会

西山委員長より, (1) 2013年度第2号の発行は
3月末を予定していること, (2) 投稿数が増加傾
向にあること, (3) 学会誌記事に付与する識別子
(DOI) の導入において, CrossRefDOI 登録に関
する覚え書の締結について報告があった.

2. 和文誌編集委員会

谷崎委員長より, 2014年3月号の編集状況(学
会賞受賞者による論文多数)が報告された.

3. 大会委員会

勝浦委員長より, 資料に基づき, 統計関連学会
連合大会運営委員会と同プログラム委員会, 国際
交流(2014年度は台湾が担当)のそれぞれについ
て進捗状況が報告された.

4. 企画・行事委員会

宿久委員長から春期集会についてホームページ
を開設し, 演題登録を開始する旨の報告があった.

5. 庶務委員会

西郷委員長より, (1) 研究部会の募集を開始し
たこと(受け付けは2013年12月7日から2014年2
月6日まで), (2) 研究分科会について, 統計教
育分科会における主査の交代竹内光悦氏から藤井
良宜氏へ), 金融の計量リスク管理分科会の継続
申請(主査:三浦良造氏, 2013年8月終了予定,
主査交代の予定)しており, 3月の社員総会で承
認を得ること, (3) 会員名簿を更新したこと, が
報告された.

6. 広報委員会

竹内委員長から, (1) 学会ホームページで和文
誌記事のPDF版の公開開始とサーバーの運用に
ついて, (2) 国会図書館からの要請に基づいて会
報の収集に応じること, (3) 会報No.158の編集
状況, が報告された.

7. その他

なし

<審議事項>

1. 欧文誌編集委員会

審議事項なし.

2. 和文誌編集委員会

審議事項なし.

3. 大会委員会

勝浦委員長から関連学会連合大会において、日本統計学会が申し込むべき企画セッションについて提案があり、審議の結果、会長講演と学会賞等授与式、受賞者講演のために2コマを連続して確保するように要望することを承認した。受賞者の集合写真を撮影する時間帯を設けることとした。今後の初級・中級講座の開催形態は検討課題とすることとした。日本、韓国、台湾が持ち回りで3年に1回ずつ各国の学会で設けている国際セッションの企画を担当する国際関係委員会の設置を社

員総会に諮ることとした。

4. 企画・行事委員会

審議事項なし.

5. 庶務委員会

審議事項なし.

6. 広報委員会

審議事項なし.

7. その他

スプリンガー社からの提案のあった日本統計学会シリーズ（英文）刊行の編集は出版企画委員会内に小委員会を設置して対応にあたる旨を承認した。

次回理事会日程

第2回通常理事会は2014年2月8日（土）12：00から統計数理研究所八重洲サテライトオフィス会議室で行う予定。

10. 金融の計量リスク管理分科会（2009－2012年度）報告

金融の計量リスク管理分科会主査 三浦 良造（一橋大学名誉教授）

本分科会は、2009年9月に承認され活動の開始は2010年からである。2010年9月から2012年9月までの「金融の計量リスク管理」分科会の活動の詳細を紹介する。

※特に会員の登録を求めませんでしたが、分科会セミナーに参加した人数は各回平均して30名程度でした。

1. 分科会セミナーを5回開催

開催場所は学術総合センター6階、一橋大学国際企業戦略研究科講義室に於いて18：30～19：50。

金融の計量リスク管理は優れて実践的なので、計量の理論と実践の両方を観ることにより大学に居る研究者と実務家が相互交流できるように努めた。

2011年10月20日 第1回分科会セミナー

伊藤 有希*（横浜国立大）「債権回収率と時間に関する研究」

尾藤 剛*（日本リスクデータバンク）「債権回収率の実務利用に関する現状と課題」

2011年11月17日 第2回分科会セミナー

山下 智志*（統計数理研究所）「信用リスクモデルの精度評価手法とパラメータの最適性」

三浦 良造*（一橋大学）「Antoch 論文紹介：信用リスク計測（あるいは分類）手法の比較」

2011年12月22日 第3回分科会セミナー

塚原 英敦*（成城大学）「歪みリスク尺度を用いたリスク管理に関する統計的話題」

森本 祐司*（キャピタスコンサルティング）「金融危機を踏まえた VaR の活用とその課題」

2012年1月12日 第4回分科会セミナー

岩崎 学*（成蹊大学）「日本統計学会公式認定「統計検定」の概要」

三浦 良造* (一橋大学)「金融リスク管理と金融工学の統計的方法について」

2012年2月23日第5回分科会セミナー

村手俊夫 (株式会社鎌倉)「信用危機時における各種クレジットモデルのパフォーマンスとリスク計測」

三浦良造 (一橋大学)「金融危機時におけるリスク計測の状況：信用リスク」

2. 国際集会での企画セッション

2012年7月2日 imS-APRM2012にて、つくば大学キャンパス。

Financial Risk Managements. TCP-21 [402]

Organizer/Chair. Ryoza Miura (Hitotsubashi University, Japan)

Speakers/Titles:

「Default Timing and Recovery Rate.」 / Yuki Itoh (Yokohama National University, Japan)

「Valuation of Constant Maturity Credit Default Swap.」 / Hidetoshi Nakagawa (Hitotsubashi University, Japan), Meng-Lan Yueh* (National Chengchi University, Taiwan), Ming-Hua Hsieh (National Chengchi University, Taiwan)

「Calibrating the Level of Capital: The Way We See It.」 / Ryo Kato (Bank of Japan, Japan), Shun Kobayashi* (Bank of Japan, Japan), Yumi Salta (Tohmatu, Japan)

「A statistical Model for Hedge Fund Returns.」 / Daisuke Yokouchi (Hitotsubashi University, Japan), Yoshimitsu Aoki (The Graduate University for Advanced Studies, Japan), Takeshi Kato (Sophia University, Japan), Ryoza Miura (Hitotsubashi University, Japan)

「On Portfolio Optimization with Levy Processes」 / Olivier Le Courtois (Ecole de Management de Lyon, France)

3. 日本統計学会での企画セッション

2010年9月 統計関連学会連合大会 (早稲田大)にて、企画セッション「金融の計量リスク管理」を開催。E会場。15:30~17:30.

【オーガナイザー】三浦 良造 (一橋大)

【座長】三浦 良造 (一橋大)

三浦 良造* (一橋大)「日本統計学会新分科会『金融の計量リスク管理』の紹介と今回の企画」

池森 俊文* (みずほFT)「金融機関のリスク管理-理論と実践の調和」

加藤 宏典* (統計数理研究所, GCIC)「ヘッジファンドのVaR計測モデルの再構築」

塚原 英敦* (成城大)「歪みリスク尺度に関する統計的話題」

三浦 良造* (一橋大)「個別ヘッジファンドリターンデータの統計的構造」

2012年9月統計関連学会連合大会 (北海道大学)にて企画セッション:「金融のリスク管理」を開催。会場 (N2), 12:30~14:30

【オーガナイザー】三浦 良造 (一橋大)

【座長】三浦 良造 (一橋大)

三浦 良造 (一橋大)「金融データとロジスティック回帰及びコピュラ関数: 修士論文に見られる研究の紹介」

塚原 英敦 (成城大学経済学部)「歪みリスク尺度の推定とそれに基づくリスク管理の統計的方法」

伊藤 有希 (横浜国立大)「デフォルトタイミングと債権回収率の関係」

山内 浩嗣 (三菱UFJトラスト投資工学研究所 (MTEC))「多目的遺伝的アルゴリズムによる信用スコアリングモデルの構築」

4. 情報発信

公式ウェブにて、セミナーなどの活動案内と資料掲載を行った。

<http://fs.ics.hit-u.ac.jp/risk/>

11. 修士論文・博士論文の紹介

最近の修士論文・博士論文を原稿到着順に紹介いたします。(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月 の順に記載いたします。(敬称略)

修士論文

● (1) Kao Fan-Hsuan (2) 理学修士 (3) 国立中央大学 (台湾) (4) An Improve Nonparametric Estimator of Distribution Function for Bivariate Competing Risks Model (5) 江村剛志 (6) 2013年6月25日

● (1) Long Ting-Hsuan (2) 理学修士 (3) 国立中央大学 (台湾) (4) A control chart based on

copula-based Markov time series models (5) 江村剛志 (6) 2013年6月25日

● (1) Shau-Kai Shiu (2) 理学修士 (3) 国立中央大学 (台湾) (4) Estimation and model selection for left-truncated and right-censored data: Application to power transformer lifetime modeling (5) 江村剛志 (6) 2013年6月25日

博士論文

● (1) 西埜晴久 (2) 博士 (経済学) (3) 東京大学 (4) グループデータからの所得分布の推定 (5) 矢島美寛 (6) 2013年6月26日

12. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

・松元新一郎編著、『中学校数学科 統計指導を極める』, 明治図書, 2013年11月, ¥1,995, ISBN : 978-4-18-090820-2

内容紹介: 中学校で復活した統計は「整理した結果を用いて考えたり判断したりすることの指導を重視する」(学習指導要領解説)とあり, この指導を充実させる三部構成(統計の理論・授業づくり・授業実践例)の書籍です。

13. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2013年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。また便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F

(公財) 統計情報研究開発センター内
日本統計学会担当

Tel & Fax : 03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

広瀬要輔, 逸見祐司, 横田彰, 吉田耕作 (敬称略)

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

大野 勝久 会員
正田 啓造 会員
柳井 晴夫 会員

入会承認

池上章太, 池森俊文, 石田和彦, 井添慎太郎, 奥村綱雄, 小倉宏之, 金城明子, 上浦基, 櫛田弘貴, 黒田敏史, 紺野由希子, 齋藤正也, 下道成人, 高橋啓, 田中陽平, 戸辺玲子, 中野貴博, 平田陽介,

退会承認

青山直人, 天坂格郎, 加藤泰久, 川瀬雅也, 宍戸駿太郎, 高橋真理子, 袴田守一, 林周二, 三野大来, 村田眞哉, 吉岡茂 (敬称略)

現在の会員数 (2013年12月26日)

名誉会員	17名
正会員	1,399名
学生会員	52名
総計	1,468名
賛助会員	17法人
団体会員	7団体

14. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

- 来日統計学者の紹介
訪問者の略歴, 滞在期間, 滞在先, 世話人などをお知らせください。

- 博士論文・修士論文の紹介
(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月 をお知らせください。

- 求人案内 (教員公募など)

- 研究集会案内

- 新刊紹介

著者名, 書名, 出版社, 税込価格, 出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。

できるだけ e-mail による投稿、もしくは、文書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致します。

原稿送付先:

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-7

大阪大学大学院経済学研究科

竹内 恵行 宛

E-mail:koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">• 統計学会ホームページ URL :
http://www.jss.gr.jp/• 統計関連学会ホームページ URL :
http://www.jfssa.jp/• 統計検定ホームページ URL :
http://www.toukei-kentei.jp/• 住所変更連絡用 e-mail アドレス :
meibo@jss.gr.jp• 広報連絡用 e-mail アドレス :
koho@jss.gr.jp• その他連絡用 e-mail アドレス :
shom@jss.gr.jp |
|--|

